

令和7年度 第9回タウンミーティング

和佐谷町会とのタウンミーティング

日 時 令和7年12月5日（金）17:00～18:00

会 場 和佐谷町公民館

参加人数 13人

1) 開会

2) 和佐谷町 安田町会長挨拶

3) 市長 市政報告

○はじめに

～和佐谷町について、能美市長の一日・一か月、プロフィールを紹介～

○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、2015年に10周年式典を実施した。また、2015年は北陸新幹線金沢開業の年でもあった。翌2016年にはマイナンバーカード制度が開始された。
- ・2017年はロシアシェレホフ市との親善50周年、姉妹都市提携40周年の節目の年であった。
- ・2018年には夏の甲子園が100回目を迎える、「栄冠は君に輝く」の作詞者である加賀大介氏のタイムカプセルを掘り起こした。
- ・2019年に令和が始まり、2020年にはSDGs未来都市に選定された。
- ・2020年開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルスの影響で1年延期となり、無観客開催となった。能美市からはライフル射撃の平田しおり選手が出場した。

- ・2022年には成人年齢が18歳に引き下げられた。
- ・2023年は加賀立国能美誕生1200年の節目であり、様々な催しを行った。
- ・2024年には北陸新幹線の石川県内全線開業を記念し、「折り紙で作った電車の最多展示」にチャレンジしてギネス世界記録に認定された。

○自然災害など

- ・2018年の豪雪、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震など、これまで様々な災害があった。豪雨災害では、仏大寺町の遣水観音靈水堂付近で土石流が発生した。能登半島地震では、緑が丘の市道が約30m陥没するなどの被害が出ている。
- ・今年は熊の出没が相次いでいる。

○市内の状況

- ・TOPPAN㈱が社名変更を行い、日本国内で初めての進出先が岩内工業団地であった。約2,000億円の大規模投資の事例もある。
- ・和田山古墳群周辺には、防災センターや警察署、能美ふるさとミュージアムができた。
- ・能美工業団地には日本ガイシ㈱が進出しており、新たに同面積の工場を建設するため、現在造成工事を行っている。
- ・能美根上駅も大きく変わった。また、能美根上スマートICが完成し、周辺にはビジネスホテルや飲食店ができた。当初想定より多くの自家用車やトラックが利用しており、ホテルの稼働率も良い。
- ・加賀海浜産業道路沿線の福島グランパーク内には、戦略的企業誘致により女性が多く働く企業も進出している。グランパーク内には保育園もあり、今後、総合商業施設もできる予定である。
- ・公園整備も進めており、インクルーシブ遊具を備えた公園を2か所整備した。
- ・保育園の民営化に取り組んでおり、15あった公営保育園のうち3園を民営化した。現在、4園目の民営化を進めている。
- ・防災設備を充実させ、はしご車、津波・大規模風水害対策車、ドローンなど、各種資機材を整備している。また、救急車は人口規模からは3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院へ搬送する場合、その間市内の救急体制が手薄になるため、

最新鋭の救急車を1台増やし、4台体制とした。

○ふるさと能美市を知ろう

- ・能美市は東西16km、南北5kmのコンパクトな市である。
- ・県内19市町の中で、面積は下から6番目、人口密度は上から4番目、工業製品出荷額は上から4番目、女性の就業率も上から4番目である。
- ・人口当たりの外国人比率が県内市町で1位であり、市内に約1,750人の外国人がいる。国籍別ではベトナム人が最も多く、次いで中国人、インドネシア人である。
- ・特産品は丸いも、ユズであり、たまねぎの生産量も多い。九谷焼、押し寿司など、多様な特産品がある。

○令和7年度予算編成方針

- ・自治体の勢いを示す指標の中でも人口が重要であると考え、全ての施策が移住・定住促進につながるよう取り組んでいる。
- ・能美市では自然動態はマイナスである一方、社会動態はプラスであり、自然減を社会増でカバーして、現在は人口が微増している。
- ・和佐谷町は残念ながら今年、人口が3人減少している。和佐谷町に戻ってくる人もいると聞いており、自然増だけでなく社会増につながるよう頑張ってほしい。
- ・合計特殊出生率が全国・石川県で低下する一方、能美市は上昇している。子育てしやすい環境や「産んでみたい」と思える施策が評価された結果ではないか。
- ・高齢化率は26%で、市内には100歳以上の方が37人いる。和佐谷町では93歳の方が最高齢だったと思う。
- ・市税が大変好調であり、要因として企業誘致の好調、人口増、賃金上昇などが挙げられる。

○防災減災対策の強化

- ・行政の最大の役目は、市民の生命と財産を守ることである。
- ・地震被害想定に基づき、避難物資の備蓄を進めている。今年5月に公表された新想定では、避難者数が従来想定の約3倍となる約6,000人に変更された。能登半島地震の教訓を踏まえ、数量だけでなく内容も見直し、トイレや乾式哺乳瓶等を増やしている。

- ・水害時でも災害対策本部を支障なく開設できるよう、市役所地下の電気設備を1階へ移設するため、本庁舎横に防災・機能強化施設を建設する。市役所からの眺望も良いため、市民が気軽に来られるスペースも設ける。
- ・能美市立病院の老朽化も課題であり、建て替えの検討を進めている。
- ・市内で交通事故が増えており、公用車は午後4時以降のライト点灯を徹底し、事故防止に取り組んでいる。
- ・石川県警から「安全安心・広報インフルエンサー」に任命され、取り組みをブログ等でPRしている。能美市でも特殊詐欺被害が多く、詐欺撲滅大使としてスーパー等で啓発活動を行ったほか、ケーブルテレビの「GO! GO! PR」に出演し注意喚起を行っている。

○インクルーシブシティの深化

- ・市内公民館にWi-Fiを整備し、デジタル公民館として様々な取り組みを進めている。例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室、子育て世代はeスポーツ体験、子どもたちはChromebookを持参して学習などで公民館に来てもらう。さらに、子どもが学習で分からない点を高齢者や子育て世代に教わる、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞く、といった多世代交流を公民館でできないかと考えている。
- ・公民館は避難所となる場合があるため、マイナンバーカードを利用した避難所チェックインの導入や監視カメラ設置により、付近河川の増水状況や子どもの通行状況などを確認できるようにする。
- ・ライドシェア「ノルノミ」の実証実験を国造地区周辺で開始した。またスマート物流も開始したが、両事業とも利用者が少ない。
- ・オンライン診療にも取り組んでいる。慢性疾患のある方が通院せず、公民館でオンライン診療を受け、薬が手元に届くようにする実証を進めている。
- ・能登半島地震の際、能美市へ避難した方が電子カルテに登録されていたことで、能美市でも薬の処方や透析が可能だった。万一、能美市で大規模災害が発生し市民が他自治体へ避難しても、避難先で円滑に薬を受け取れるよう電子カルテの整備を進めている。一方で診療情報はデリケートな内容を含むため、開示範囲や開示対象者などの整理が必要である。

○知名度・魅力度の向上

- ・のみ応援特典券をダイレクトメールで配布した。

- ・毎年、中学2年生を対象に「ようこそ先輩」と題して先輩が講演しているが、今年は20周年を記念し、私が講演を行った。中学生に市内に欲しい店を聞くと、ファストフード店、コーヒーチェーン店、カジュアル衣料品店などの要望があった。
- ・20周年記念事業として、8月に実施したNHKラジオ体操の収録では、開始30分前の午前6時に約1,400人が集まり、主催者からお褒めの言葉をいただいた。
- ・今年の敬老会は周年にあたり、タントで開催した。民謡や三味線の披露に、満員の会場は大いに盛り上がった。
- ・和気の岩ドッグランをリニューアルし、ドッグランエリアを従来の約3倍に拡張した。土日には多くの人が利用している。
- ・北陸鉄道能美線跡の健康ロードもリニューアルし、10/25の完成記念式典のウォーキングイベントで約16km歩いた。同日の夜には、のみふる古墳まつりで古代衣装を着て歩き、この日の歩数は過去最高の2万7,475歩だった。
- ・10/26には「なんでも鑑定団」の収録があり、多くの方から鑑定依頼の申し込みがあった。
- ・ゆかりのプロミュージシャンによるコンサートでは、市の観光大使が出演する。まだ席に余裕があるので、ぜひお越しいただきたい。
- ・辰口フラワーハウス跡地周辺には動物園や丘陵公園、温泉、アドベンチャーガーデン等があり、道の駅的機能を持つ場所にしたいと考えている。

○持続可能な行財政改革

- ・道路や橋、病院、学校等が老朽化しており、更新と財源確保が最大の課題である。
- ・財源確保のため、ペーパーレスやフリーアドレスに取り組み、3年間で約1,700万円の経済効果が出ている。また、能美市誕生20周年の節目に、抜本的な経費削減に取り組むため、全事業・施策の見直しを行うタスクフォースチームを立ち上げた。
- ・外国人住民が多いことを踏まえ、市役所窓口での対応として、母国語と日本語をアクリル板に同時表示する字幕表示システムを整備した。

4) 閉会